

「脳卒中発症後の「できる活動」と「している ADL」とのギャップと要因に関する研究」

1. 研究の対象

2021 年 4 月 1 日～6 月 30 日に脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）と診断され当院に入院した方。

2. 研究の背景・目的・方法・期間

〔背景〕

脳卒中治療ガイドライン 2021（改訂 2025）では発症早期より早期離床と積極的な活動が推奨されています。早期離床後に「できる ADL」を高め、それを病棟で「している ADL」に繋げていくことはリハビリテーション専門職の大きな役割の一つですが、脳卒中患者は「できる ADL」と「している ADL」でギャップがあるとされており、回復期リハビリテーション病棟からはギャップの報告が散見されています。しかし、急性期病院における「できる ADL」と「している ADL」のギャップの実態や、その具体的な要因分析についての報告は少ない状況です。

〔目的〕

本研究の目的は、当院における脳卒中患者の「できる ADL」と「している ADL」とのギャップの有無とその要因について明らかにすることです。

〔方法〕

対象者の“できる ADL”を「予想 FIM」、「している ADL」を「FIM」で評価し、両者のギャップの有無とその要因を分析します。なお、「予想 FIM」は当院作業療法士がリハビリテーション場面から病棟で遂行できると推察する ADL 状況を FIM と同項目で評価します。

〔期間〕

倫理委員会承認後から 2028 年 12 月 31 日

3. 研究に用いる資料・情報の種類

本研究では当院の診療録から、入院されていた患者さんの情報を収集します。収集する情報は、入院時および退院時の FIM、入院時および退院時の予想 FIM、転帰先、性別、年齢、入院日、退院日です。

4. 個人情報の取扱いについて

患者さんの氏名および ID を削除し、代わりに新しく符号または番号を付けて仮名化処理を行い、個人を特定できないようにします。また、それらの抽出データは、外部ネットワークと切り離されたパスワードロックのかかるパソコン上に保存します。この研究で得られた情報は研究責任者（中川 響）の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。なお、本研究において得られた情報は、院外への発表が行われてから 10 年保管し、適切に廃棄します。

5. 本研究に用いた情報の二次利用、外部への試料・情報の提供について

本研究で得られた情報は、今回の研究目的以外に使用することはありません。また、収集した試料や情報を外部へ提供することはありません。

6. 研究成果の公表について

本研究の結果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

研究結果および報告内容に関しては、仮名化し個人情報 that 特定できないよう十分配慮します。

7. 研究組織

研究責任者

近江八幡市立総合医療センター リハビリテーション技術科 中川 響

研究担当者

近江八幡市立総合医療センター リハビリテーション技術科 山田 憲佑

近江八幡市立総合医療センター リハビリテーション技術科 住田 真衣

8. お問い合わせについて

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書等の資料を入手・閲覧することが出来ます。

また、本研究対象に該当するかたで、本調査へのご了承が得られない場合（診療録を見られたくないなど）は、その求めに応じて対象者の方の試料・情報を本研究に利用（又は他の研究に提供）することについて停止することができます。停止を求められる場合には、2028年12月31日までに下記の連絡先までお申し出ください。なお、了承の有無にかかわらず、患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究に了承いただけない場合の連絡先】

近江八幡市立総合医療センター リハビリテーション技術科

中川 響（研究責任者）

〒523-0082 滋賀県近江八幡市土田町 1379 番地

TELL 0748-33-3151